

# 医療現場にアロマ療法

## 患者の気持ち前向きに

会話を弾ませながら、リハビリ施設の利用者にマッサージを施すアロマセラピスト—静岡市葵区



多彩な香りを調合してに塗り込むと、こりをほぐやしに活用するアロマ。ますますなすやかなマッサージヒー（芳香療法）のブームが始まった。

専門家「アロマセラピスト」のブームは、気分を落し着かせるローズウッド、体を温めるマジョラム、さわやかで緩衝作用にしたり、落ち着かせたユーカリ。アロマセラピストの現場でも認められ始めている。「その日の気温や湿度に合わせた調合を求めています」と説明した。

静岡市葵区の静岡リハビリテーション病院。病室に入院中の石部さだまさでセラピストが優しく患者（80）に、背を撫でている。香りに敏感な患者の両手、さな生け花を思い出す。

## 県内病院や施設 セラピスト採用増加

「と」を弾ませた。同病院が2005年に初めて採用したセラピストは3人。今では隣接する介護老人福祉施設や通所リハビリ施設と合わせて計36人に増えている。

病院を運営する医療法人社団アール・アンド・オーの鈴木延幸専務理事は「患者さんがリハビリや前向きになつてくれると思えば、アロマセラピストを雇う効果は十分ある」と話した。

御殿場市ぐみ沢の東部病院（右隣厚生会）は昨年、4人のアロマセラピストを採用した。現在は3人が働いている。近藤純子看護部長は「リラックサでできると好評で、リピーターも多い。知名度アップが課題」と話す。

300人以上のセラピストを輩出したアクトインターナショナルスクール（静岡市葵区）の太田めぐみ理事長は「ここ数年で病院側も高い関心を示してくれるようになった。アロマセラピストが趣味の領域から社会的に重要な職業の一つになる日も遠くない」と、手ごたえを感じている。